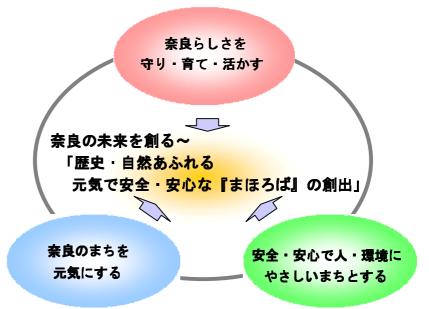
第2章 都市計画の目標

1. 目標年次

●平成32(2020)年

2. 都市づくりの基本方向



(参考) まほろば: すぐれたよい所・国(広辞苑より)

3. 都市の将来像

本県は、多くの歴史文化遺産と固有の自然環境や歴史的風土を有するかけがえのない地域としての性格と、大阪の影響を強く受け大都市圏として計画的整備が求められる性格を持っている。これらに加え、今後、都市間競争に生き残るためには、社会資本整備が整いつつあることを契機に、地域の個性を重視した豊かで活力ある持続可能な都市を目指す。

●県土の都市活動の中心となる2大拠点(奈良、橿原)と個性豊かな主要生活拠点の形成

奈良市・橿原市を中心として形成されている拠点機能の更なる充実を図りながら、それら2大拠点以外に も各地域の都市活動を支える多様な都市機能の集積を推進し、2大拠点を補完する個性豊かな主要生活拠点 の形成を図る。

●拠点間の交流や産業活動を支える連携軸(ネットワーク)の形成

都市活動の根幹をなし、県土の骨格となる広域連携軸及び地域連携軸を引き続き整備・強化し、これらを 活用した地域の活性化(交流促進、産業活動の活性化)の促進を図る。

●観光交流拠点の形成

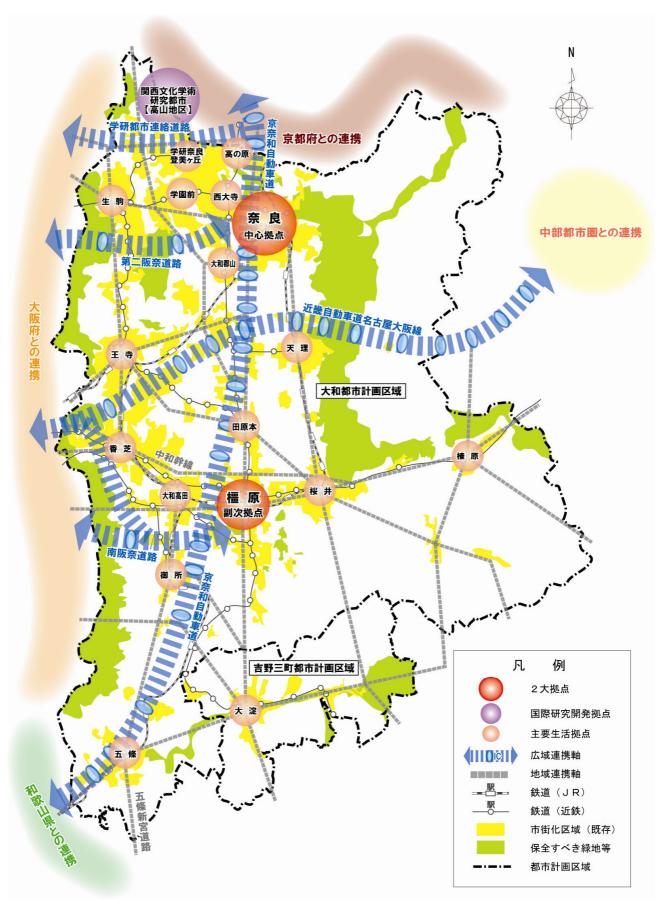
本県の3つの世界遺産、明日香村、橿原、山の辺、金剛・葛城などの地域を観光交流拠点と位置付け、これらの拠点の歴史文化遺産等の保全と魅力向上を図るとともに、宿泊、交通ターミナル、飲食物販等を中心とした賑わいと交流の拠点の整備を図ることにより、観光交流しやすい環境の整備を促進する。

■観光交流拠点をつなぐ奈良らしい観光交流軸の形成

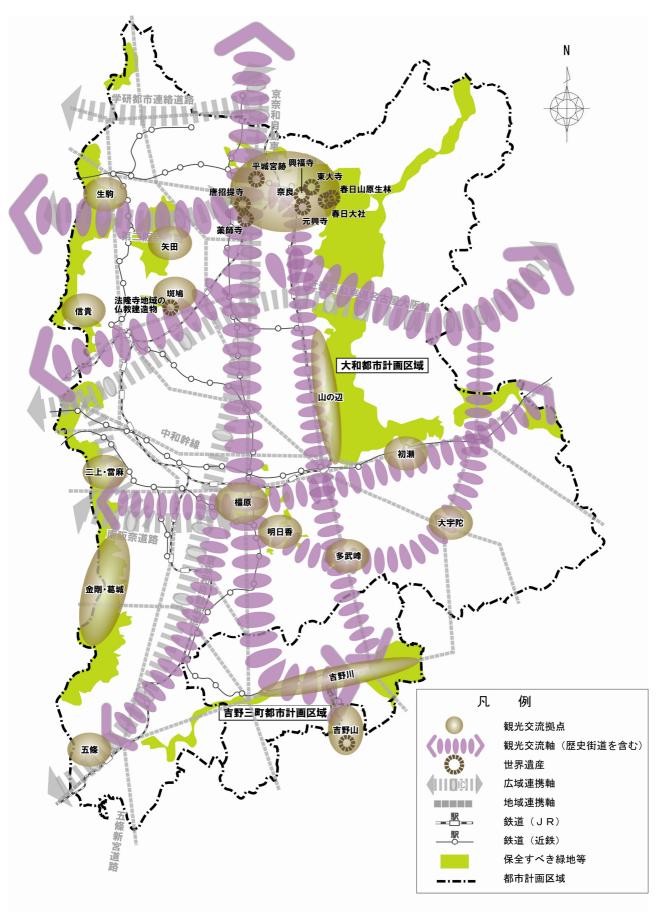
観光交流拠点をつなぐ幹線道路や鉄道などを観光交流軸とし、これらの軸の形成のためのハード施策及び ソフト施策を一体的に推進する。

●地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創るための機能の集積等

インターチェンジや既存工業団地の周辺等において、地域特性を活かした工業・流通業務施設の集積を図るとともに、高度医療拠点病院の設置とその周辺を含めた医療、福祉等の必要な機能の集積など、いきいきと健やかに暮らせるまちづくりの実現を図る。



奈良県都市計画区域全体の将来都市構造のイメージ図



奈良県都市計画区域全体の将来都市構造(観光交流)のイメージ図